



# 只見町ブナセンターだより

【次回企画展】

## 季節とともに生きる 只見の野鳥とその生態

2015年1月17日(土)～4月19日(日)



この企画展では、只見町で普通に見られる鳥類をパネルや写真、剥製などにより紹介します。

庭先に現れたオオルリが春の訪れを知らせてくれるように、何気ない鳥のいる風景から私たちは季節を感じることができます。鳥が作り出す季節の風景とその鳥の生態とを紹介することで、見なれた野鳥や自然をもう一度見直していただき、只見町の自然を理解し、楽しんでいただけるよう企画しました。ぜひ、ご家族でご来場ください。

【次回ブナセンター講座】

## 森をつくる鳥たち～鳥と果実の共進化～

2015年3月7日(土) 13:30～15:00

講師：上田 恵介氏(立教大学理学部生命理学科教授)

※講座の聴講には入館料が必要です。

ブナセンター講座では、野外調査を通して鳥類の行動や社会性について、長年研究を行ってきた上田恵介氏を講師にお呼びし、鳥類の生態についてお話していただきます。鳥は森をすみかとしているだけではなく、森をつくる役割も果たしています。例えば、カケスはドングリを運ぶことで森を広げ、花蜜を吸うメジロは花粉を運ぶことで植物の繁殖を手助けしています。今回のブナセンター講座では、鳥と植物との関係を中心に、鳥類の生態とその魅力についてお話しいたします。

## 【自然観察会】

# 上田先生と歩く！冬のブナ林

2015年3月8日（日）10:00～12:00

観察地：櫛戸、只見ダム周辺（予定）

※天候により観察地変更または中止することがあります。

定員：30名

参加費：500円（入館料、保険料含む）

持ち物：防寒具、長靴、飲み物

※お持ちの方はかんじき（スノーシュー）、双眼鏡をご持参ください。

※事前予約が必要です。只見町ブナセンターまで 0241-72-8355

### 《プロフィール》

上田恵介（うえだけいすけ）

立教大学理学部生命理学科教授

1950年大阪府枚方市に生まれる。府立寝屋川高校卒業後、大阪府立大学農学部で昆虫学を学ぶ。その後京大農学部昆虫学研究室を経て、大阪市立大学理学部博士課程に進み、セッカの一夫多妻制の研究で理学博士。埼玉県在住。『Strix』（日本野鳥の会）および『生物科学』（農文協発行）編集長。専門は鳥の行動生態学、動物行動学、進化生物学など。進化心理学（人間社会生物学）も興味の範囲。

## 【お知らせ】

### 「自然首都・只見」学術調査助成金事業成果発表会

只見町は「自然首都・只見」学術調査研究助成金事業を平成24年度から実施してきました。この助成金事業の目的は、自然環境、歴史、民俗、産業に関して科学的評価を行うとともに、住民への学習機会の充実、各研究機関との交流の推進、研究成果の活用を図ることです。今年度は大学や博物館に所属する7人（団体）が只見町での調査研究に取り組んできました。その成果の発表会です。只見町の自然環境、動植物についてより深く知る良い機会です。みなさんぜひご参加ください！！

また、発表会のあとには、発表者の皆さんとの懇親会を開催します。発表者の皆さんは調査研究で只見町にしばしば訪れて、すっかり只見ファンです。こちらもぜひご参加ください。

【日時】 平成27年1月31日（土）午後1時～午後5時半

【場所】 朝日振興センター 2階ホール

【対象】 どなたでも参加できます！参加費は無料です。

## ○助成研究者との懇親会

【日 時】： 1月31日(土) 午後6時30分～午後8時30分

【場 所】： 民宿 只見荘

【参加費】： 4,000円

【お申込み方法】：平成27年1月26日(月) 午後5時までに  
総合政策課地域振興係まで電話でお申し込みください。  
(TEL0241-82-5220)

### 【発表内容と発表者】

- ①「ユキツバキとヤブツバキは別種なのか？形態と遺伝子から探る種分化」  
三浦 弘毅 さん(新潟大学・院・自然科学研究科) <1:15~1:45>
- ②「只見における雪食斜面が溪流沿いに成立する森林の組成や構造に与える影響」  
近藤 博史 さん(横浜国立大学・院・環境情報) <1:45~2:15>
- ③「積雪環境下でのブナの成長」  
宮下 彩奈 さん(東京大学・院・理・日光植物園) <2:15~2:45>
- ④「只見町より記載された新種タダミハコネサンショウウオ」  
吉川 夏彦 さん(国立科学博物館) <3:00~3:30>
- ⑤「只見のヒメサユリ — 3年間の調査で明らかになったこと —」  
大曾根 陽子 さん(首都大学東京) <3:30~4:00>
- ⑥「只見町周辺河川におけるヤマメ・イワナの分布特性の把握と  
環境教育・ESDに向けたフィールド教材開発の試み」  
佐藤 源亮 さん(東北工業大学) <4:00~4:30>
- ⑦「只見のアリ類 -アリ相の特徴と他地域との類似性-」  
北出 理 さん(茨城大学 理学部) <4:30~5:00>

## 【活動報告】

### ■虎ノ門生態学研究会の合宿式研究会

#### 「自然首都・只見」学術調査研究助成による研究集会

虎ノ門生態学研究会は、生態学を志す所属不問の集まりで、関東地方を中心とした大学の学生や先生、研究所の職員、OB・OGなどいろいろな方が参加しています。この秋に只見町で合宿形式の勉強会を行いました。その時の報告を、会の代表の塩見正衛さん(茨城大学名誉教授)がお寄せくださいました。

10月11~13日(土~月)、いつもは毎月東京で行っている虎ノ門研究会を、今回は只見町で合宿して開催しました。第一日目は、朝日地区振興センターを会場にして、『生物の多様性につ

いて語ろう!』と銘打った公開講演会を開き、目黒町長をはじめ町民の方々および虎の門研究会の会員、約30名が参加しました。まず、吉田智弘氏(東京農工大学)が、「木のうろ(樹洞)が支える森の生物多様性 -樹洞に生きる虫たちのしくみ-」のテーマで講演しました。この研究では、木のうろの形状と大きさ、そこにたまった枯葉の量、昆虫の死骸の量などによって、そこに住んでいる昆虫類の種の多様性が異なっていることが明らかになりました。

2番手として、吉村 仁氏(静岡大学)が「素数ゼミの謎から生物多様性へ」というテーマで講演しました。アメリカ合衆国東部に生息するゼミの発生についての研究です。このゼミは毎年発生するのではなく、13年あるいは17年ごとに大発生することで有名です。吉村氏は、このように13あるいは17という1と13、あるいは17でしか割り切れない数(素数)の年だけに発生する珍しいゼミの生態的メカニズムを明らかにしました。それは、氷河期の低温化の時期におけるゼミの特異な進化によって生じました。最後は、河原崎里子氏(只見町ブナセンター)が、「ようこそ!自然首都・只見へ」というテーマで、只見の自然環境やブナセンターの活動を紹介を行いました。

研究会の2日目は、研究会会員の日ごろの研究成果の発表とブナセンターの見学を行いました。会員の専門分野はそれぞれ異なるので、話題は非常に多岐にわたり、また、質疑応答や議論は白熱しました。3日目は癒しの森を河原崎里子氏の説明を聴きながら見学し、参加者は生態学の知識を一つ増やすことができました。

## ■写真教室

### 〈猪又かじ子写真教室〉

「秋の布沢集落を撮る!」2014年10月26日



柏市在住の写真家・猪又かじ子さんを講師に迎え、今年も写真教室を開催し、13名の方にご参加いただきました。

当日は雲ひとつない秋晴れで紅葉も真っ盛り、散歩をするだけでも気持ちの良い素晴らしい日和でした。撮影時間の午前中は布沢集落を歩き、気になるポイントがあると先生のアドバイスのもとみなさん真剣な表情で撮影をされていました。また、集落内をのんびり歩きながら畑仕事の方と

のおしゃべりも楽しく、モデルになって頂いたり、農作物について話を聞いたり、楽しい時間を過ごすことができました。普段車だと通りすぎてしまう風景も歩きだといろいろな発見がありました。只見町ならではの秋の風景を写真に収めることができたのではないかと思います。



午後は森林の分校ふざわの広間で、撮影してきた写真をプロジェクターで映して先生からの講評を頂きました。同じ風景を撮影していても、光の捉え方や角度などが異なりそれぞれ個性のある写真と

なり大変興味深いものでした。撮影した写真の中から先生に選んでいただいた1枚をお一人ずつプリントして、記念に持って帰っていただきました。参加者のみなさんからは、また別の季節にも来てみたいとの声が聞かれ、写真教室と只見の美しい秋を存分に満喫していただけたようでした。



## ■ブナセンター講座

### 〈古民家解体から見えてくるもの〉 11月8日（土）



ブナセンター講座「古民家解体から見えてくるもの」が11月8日（土）に開催されました。講師は、富山大学准教授の奥 敬一（ひろかず）氏です。町内の方を中心に28名にご参加いただきました。

今回のブナセンター講座では、京都丹後半島の民家の特徴と風習、古民家を解体することで明らかとなった建材の樹種についてお話をいただきました。丹後地域の民家は、部屋を4つに区切る通常の田の字型ではなく、このうちの2つをつなげて広い空間をつくる広間型三軒取りという形式を取ることが多いそうです。この空間で農作業がで

き、土間の上部の中二階、屋根裏を資材置き場とすることで、外に出ずとも事足りるよう冬期の深雪に対応した工夫がされていたそうです。この地域の民家の最大の特徴は、ササ葺きの屋根です。ササは周囲の里山から調達しますが、薪炭林を伐採した後に生えるササや、成長した林の林床のササを利用し、ササの刈り取りが薪炭林の管理につながるという合理的な利用方法をとっていました。葺き替えの際に大量に必要なササは、集落の各戸から人を出して刈ったそうです。只見町でも、カヤ刈りには近所に手伝いを頼む風習がありました。

また、奥氏を含む研究グループは、1軒の古民家を解体・調査しました。解体に用いた古民家は1940年代後半に建てられた築60年ほどのものですが、伝統的な建築工法が用いられていました。主に建材の種類に注目して解体したところ、人の住む部分の材にはマツが多く、次いでクリ、大黒柱など人目につきやすいところにはヒノキが使われていることがわかりました。屋根の小屋組みには、クリのほかコシアブラ、シデ、コナラ、マダケ、ホオノキ、サクラ、ネムノキなど様々な樹種が使われており、中には曲がった細い木なども利用されていました。これらの樹種は、いずれも周辺の里山で採れるもので、「上世屋（かみせや、調査地の地名）の民家は里山の若い“雑木林”そのものだった」と奥氏は表現されていました。建材の樹種を決めるのは、大工ではなく、木挽き屋であったというのも興味深い話でした。ほかの地区での調査では、ブナやコナラを使った古民家が発見されたそうです。民家があった土地では、家の建て替えのための用心山としてブナ林を残す風習があったそうです。

最後に古民家が人を育てると題して、立命館大学の学生と行った活動を紹介してくださいました。農業体験施設として残したササ葺き民家を借り受けた大学の学生団体が、自分たちの手でササ葺きの全面葺き替えを行い再生させる取り組みをはじめたそうです。この活動によって学生と地域との交流

が生まれ、また学生たちはササ葎きの伝統技術だけでなく、組織作りや運営などを通して人として成長することができ、学生自身も達成感を得ることができたそうです。古民家を題材として、様々な活動ができるという可能性を示して下さいました。

参加者から丹後地域にカヤ葎屋根はないのかという質問がありましたが、屋根に使われている材をカヤと呼び、ササ葎きもカヤ葎きの一種であると教えていただきました。ススキを使った一般的な屋根は組織だった職人集団の手によるものが多く、それ以外の材は地元の人が葎いた可能性があるということでした。ほかにもたくさんの質問があがり、充実したブナセンター講座となりました。

## ■料理教室

### 〈平出美穂子料理教室〉「只見のそばを食べよう！」

平成 26 年 11 月 22 日（土）



今年も平出美穂子先生（元郡山女子大学准教授）を講師に、秋の料理教室「只見のそばを食べよう！」を開催いたしました。

蕎麦料理は、平出美穂子先生監修の“そば丸ごと百珍”の中から選びました。昨年は、お腹にたまる料理が多かったので、蕎麦粉・蕎麦米・蕎麦菜の3種類の蕎麦をバランスよく食べることが出来るように、それぞれ一品ずつ選んでみました！

初めに、平出先生からソバの栄養価とそれぞれの調理方法についての説明がありました。その後、作ってみたい料理ごとに分かれて調理にうつりました。

揚げ蕎麦がきのみぞれがけは、熱湯で蕎麦粉を練ったものを菜種油で揚げて、水菜と一緒におろしだれでいただきます。

蕎麦菜と厚揚げの炒め煮は、天候不良で蕎麦菜が育たなかったため、急遽カイワレと豆苗で代用しましたが、甘口の味付けでとても美味しかったです。蕎麦菜には、普通の蕎麦粉よりもルチンが多く含まれているそうです！蕎麦を育てるのはちょっと…という方も、春に蕎麦の種を蒔いて10~20cmほど成長した蕎麦の芽をサラダなどにして食べてみてはいかがでしょうか？

最後に、蕎麦米しるこをいただきましたが、全体がとろりととろみがついて、普通のお汁粉とはまた違った食感を楽しむことが出来ました。蕎麦米が入っているので、お餅や白玉などを入れなくてもかなりお腹にたまる感じがしました。食後に、残った蕎麦米を炒って煮出した蕎麦茶を皆で頂きました。今回は、作る料理をバランス良く選んだかいもあってか、ほとんど余すことなく皆で美味しくいただくことができました！

昼食も兼ねた試食会では、平出先生から蕎麦にまつわるお話を聞いたり、料理についてそれぞれ意見交換を行ったりと、美味しい蕎麦料理を食べながら交流を深める事が出来ました。

ブナセンターの料理教室は、開催場所の都合上少人数の参加募集となっており、町内向けのイベントとなっておりますが、今回は町外の方にもご参加いただくことができ、にぎやかな料理教室となりました。



## ■只見町ブナセンター友の会企画展説明会 2014年12月13日

「第2弾！みんなで企画展を見よう！」ということで、現在開催中の企画展「只見町の天然資源とその利用」をみんなでじっくりと見る会を開催しました。当日は大雪にもめげず7名の方々が集まりました。

担当の渡部はるか指導員が企画展を案内し、皆さんからも自由に質問や意見を求めながら進んでいきました。今回の企画展は、ユネスコエコパーク登録でも認められた只見地域に受け継がれてきた自然と共にある暮らし、伝統的な文化、自然環境と資源などを紹介しています。

展示パネルをじっくり見ていくと、それらの暮らしを実践してきた皆さんからはこちらの期待通りそれ以上に、経験に基づいた貴重なお話をたくさん聞くことができました。改めて只見の生活は自然と深く結びつき豊かな暮らしであることを感じる事ができる有意義な時間でした。2時間近くかけて企画展を見学したあとは、休憩室でお茶を飲みながら今までの只見の暮らしや今後の只見の発展についてなど活発に意見交換し交流を深めました。まだまだ話は尽きることはなかったのですが、大雪の心配もあったため「只見らしい風景になってきたなあ」などと笑いつつお開きとなりました。大雪にも関わらずお集まりいただきありがとうございました。

## 【連載：世界のBR (Biosphere Reserve s：生物圏保存地域)No.2】

ユネスコエコパークというのは日本国内の呼び名で、国際的には生物圏保存地域 (Biosphere Reserve: BR) といいます。現在、119カ国に631のBRがあります。海外のBRをシリーズで紹介します。

2014年6月に只見町や南アルプスと同時に海外では11の地域がBRに登録されました。

今回も前回に引き続きそのうち1つのBRを紹介します。

●Monte Viso/ Monviso (フランスとイタリアの国境をまたぐモンテ・ヴィーゾ)



アルプス山脈の西南端にそびえるモンテ・ヴィーゾ山（標高 3840m）はイタリアとフランスの国境にそびえます。2013 年にはフランスとイタリアがこの山域から地中海にかけての地域を個別に BR 登録申請しましたが、2014 年にフランスとイタリアの国境をまたぐ BR として登録されました。標高の高いところに湖が点在することや地中海性気候の影響を受けた景観が広がるのが特徴です。森林だけでなく、岩だらけのところや水の豊かなところなど景観が多様で、生物の多様性も高いです。ツーリズムはこの地域の経済活動の中で重要で、他に農業や林業、工芸も盛んです。

\*この記事は以下のユネスコのホームページに基づいています。このホームページから各 BR の写真を見ることができます。もちろん、只見も載っています！

<http://www.unesco.org/new/en/media-services/multimedia/photos/mab-2014/>

【今後の活動予定】

■只見町ブナセンター行事予定

開催時期	行事名	備考
2015 年 1 月 17 日（土）～ 4 月 19 日（日）	企画展 季節とともに生きる 只見の野鳥とその生態	只見町に生息する鳥類を、パネルで解説する他、写真と剥製の展示を行います。
3 月 7 日（土）	ブナセンター講座 森をつくる鳥たち～鳥と果実の共進化～	講師：上田恵介 氏 (立教大理学部生命理学科教授)
3 月 8 日（日）	自然観察会 上田先生と歩く！冬のブナ林	観察地：下福井地区、楢戸地区を予定

【編集後記】

「カメムシが少ないと雪が少ない」「カマキリが低いところに卵を産むと雪が少ない」なんて話をよく聞きますが、今年は両方とも当てはまっていたのに、カメムシ予報もカマキリ予報も完全に外れですね。大変な大雪で只見町はあっという間に雪に覆われました。でもこれが只見らしい風景なのでしょうね。

みなさん、雪の只見に遊びに来てけれ～！！



〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地「ただみ・ブナと川のミュージアム」内



開館時間：午前 9 時～午後 5 時（最終受付は午後 4 時まで）休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）

入館料：高校生以上 300 円 小中学生 200 円 未就学児無料（20 人以上は団体割引）

■Tel 0241(72)8355 ■web <http://www.tadami-buna.jp>